

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171401797		
法人名	医療法人社団向仁会		
事業所名	医療法人社団向仁会グループホームよるこびの家住慶 1階		
所在地	函館市谷地頭町31-8		
自己評価作成日	平成24年12月18日	評価結果市町村受理日	平成25年3月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりの意思を尊重し、「その人らしさ」を最後まで失わないよう、適切なサービスの提供を心掛けます。
 入居者が地域社会の一員として生活出来るように支え、医療・介護の提供・尊厳やプライバシーへの配慮を重視した総合的な生活支援を目指します。
 24時間365日職員が常駐して、提携の医療機関と連携を図り、入居者様の日々の健康管理や緊急時のサポートを行います。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0171401797-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成25年2月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<就業環境の整備>
 管理者は、シフトの調整や資格取得の希望、個人の目標や考え方を個人面談で話し合い職員の希望や思いを把握し、意欲向上につなげて就業環境の整備に努めている。また、系列法人の他事業所への異動等により職員の希望する職種への就労の機会を確保している。

<楽しみごとへの支援>
 利用者の日常生活に変化を持たせるように、春には函館公園での花見や秋には四季の杜公園での紅葉散策、函館牛乳や立待岬へのドライブなど戸外に出かけられるよう支援している。また、事業所内では誕生日会や夏祭り、七夕等のイベントを開催し、地域の子供たちの来訪や利用者家族が参加し、交流を深めている。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)		項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します	
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で考えた理念を事務室などに掲示し共有し実践につなげている。	住み慣れた地域の中で暮らし続けられるように職員の意見を取り入れた事業所独自の理念をつくり上げ、職員間で共有している。また、玄関先や各ユニットの廊下や事務室に掲示している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設行事等で地域の方と交流を深めている。町内会の資源回収や文化祭に参加している。	町内会の夏祭りや文化祭等の催し物、資源回収等の行事には出来る限り参加している。また、広報誌「よるこび新聞」を地域に配布し、認知症への理解を得る取り組みをしている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌等を近隣の方に見て頂いたり、運営推進会議で認知症について理解して頂けるよう努めている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回テーマを変え、年に6回運営推進会議を開催し関係各位との意見交換にてサービスの向上を図っている。	2か月毎に運営推進会議を開催し、ホームの状況や行事報告を行い、具体的な内容について話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所、保健所、市町村の担当者と連絡を行い協力体制を築くように取り組んでいる。また入居者数報告、事故報告、実地指導等を受け適切な助言を受けている。	市担当者や包括支援センターとは、運営推進会議や日常業務を通じて情報交換を行い、連携を深めるように努めている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設けており、事例検討等の勉強会を行い職員全員で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を内部・外部研修を通じて正しく理解しており、管理者及び職員の認識の共有が行われ、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内、法人内の虐待防止の勉強会や外部の研修会などに参加し職員一人ひとりが虐待に関する知識を深め虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内の勉強会や外部の講演会などに参加し制度について学んでいる。何時でも制度を活用できるように支援している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に管理者より十分に時間をかけて説明を行い、利用者、家族に理解・納得を図っている。疑問・要望等にはその都度対応するよう心がけている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に意見・要望を言える環境を作り、玄関には苦情相談窓口の案内と意見箱を設置している。	家族や来訪者等が管理者、職員並びに外部者へ意見や苦情等を言い表せるように玄関に意見箱の設置や法人の苦情相談窓口を掲示している。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月スタッフ会議にて意見交換の場を設けている。又、管理者と職員が日々の業務の際にも話し合い、環境作りに反映させている。	管理者は、シフト調整や資格取得の希望、個人の目標の設定を個人面談で話し合い、職員の希望や思いを把握し、毎月開催するスタッフ会議で、要望や提案を運営に反映する機会を設けている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	契約更新時には自己評価、上司による評価、技能試験を実施して、職員個々の状態を把握している、又、定期的に面談を行い現場の環境整備に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内または施設内で定期的に勉強会を行っている。又、管理者より外部研修の案内があり、研修を受けられる環境が整っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加盟しており、定期的な勉強会、講演会、親睦会、会議等で交流を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前にはパンフレットの配付や見学なども動めていて、初回面談時に本人の希望、不安、要望等の確認を行っている。又主治医がいる場合は医療的な情報も把握し、関係作りに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面談時に家族の希望、不安、要望等の確認を行い関係作りに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	医療的な治療や機能的なりハビリの必要な方には、適切な施設の利用も含めた対応に努めている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人の役割や生きがいを見出し共に暮らしていく者同士の関係を築いている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時の情報の共有を行い、必要時には外出、通院、生活介助を手伝って頂き、本人を中心に家族と職員の関係を築いている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容室やかかりつけの病院への通院の支援を行い、馴染みの来客者などが気軽に立ち寄れるような環境作りをし関係が途切れないように努めている。	馴染みの商店への買い物や行きつけの美容室の利用等で馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。また、地域行事の参加を通じて地元の人々との交流に努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同のホールにて利用者様同士が協力し合い、助け合う場面が見られている。時には職員が間に入り仲介や問題等を防ぎ、支えあえるような支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方にもお見舞いやご家族様と連絡を行い、必要に応じて相談を受け助言などの支援に努めている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中から本人の意向や想いを把握し、出来るだけ本人の希望に沿うように努めている。	一人ひとりの希望や意向の把握に努め、本人本位に検討している。また、一人ひとりの力を活かした役割ごとや外出支援に取り組んでいる。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や馴染みの暮らし方を考慮し、本人に合った支援を行い、経過等の把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録、温度版、その他確認表で確認を行い個々の人生観や生活のリズムなど現状の把握に努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンス、担当者会議を行い、本人の意見を中心に家族の意見も反映させた介護計画を作成している。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族の希望や意見を反映するようにしている。また、計画作成担当者を中心にカンファレンス、モニタリングを通じて介護計画に職員の意見を反映している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子や気付いたことを介護記録に記入し、スタッフ会議、カンファレンスを通じ介護計画に反映させている。又、法人内で情報を共有できるツールを使用し介護計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人の強化型老人施設やクリニックとの連携を密に行い、本人に合ったサービスを提供できるように取り組んでいる。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会、消防署、民生委員、包括支援センター、市役所、保健所との連携を行い、安全で豊かな暮らしを支援している。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医や本人や家族の希望される病院への付き添いを行い、適切な医療を受けられるように支援している。	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。また、訪問看護の利用や定期的な医師の往診で適切な医療を受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人クリニックと医療連携体制を行っており、定期的な健康管理と24時間オンコール体制にて適切な支援をしている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には主治医からの紹介状、施設からの介護要約にて情報交換を行い、入院先の担当医、医療相談員、担当看護師との関係作りを行っている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期に関する方針の説明を行っている。終末期のケアを行う場合、同法人の強化型老人保健施設やクリニックの協力を受けながら、御本人・御家族が望む終末期に向けチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら法人全体でターミナルケアを支援する体制が築かれている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内グループホーム合同で救命救急講習を行い実践力を身に付けている。又、緊急マニュアル、応急手当マニュアルを準備して対応している。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防隊員の立会いの下、年に二回の火災避難訓練、消化訓練を行っている。又、町内会、保健所等との協力体制を運営推進会議等にて築いている。	消防署の協力の下、年2回昼夜間を想定した実技を伴う避難訓練を実施している。また、スプリンクラーや防火扉が設置されている。	今後は、更に地域に働きかけて協力を得ながら避難訓練への参加や協力体制を築いていただけるような取り組みを期待します。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合った声掛けをしたり、その人らしい生活を過ごせるよう努めている。又、個室を設けプライバシーの確保をしている。	一人ひとりの尊厳と誇りを損ねないような言葉かけや対応に心掛け、プライバシーや羞恥心にも配慮している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	語源的(言葉)、非語源的(フリップやジェスチャー)コミュニケーションを行い自己決定出来るよう働きかけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念にも掲載している通り、ゆとりをもって一人ひとりの生活ペースを大切に希望に沿った支援を心掛けている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じた服装、身だしなみの声掛けやお手伝い、理美容室の使用の声掛け等の支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者が一緒に食事の準備や後片付けを行い、一緒に食卓にて食事を行っている。個々に合わせた食器用具を選定し、自分で食事を行えるように工夫している。	食事の後片付けや食器拭き等一人ひとりの力を活かしながら取り組み、嗜好や体調に合わせて支援している。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の病気や状態に合わせた食事量や食事形態で提供し、医師との相談をして状況に合わせて栄養補助食品等も使用して支援している。			
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の介護計画に基づいた見守り、介助にて口腔ケアを行っている。			
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握し、排泄の声掛けや介助を行い、排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの力や排泄パターンを排泄チェック表で把握し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の把握、乳製品の提供、医師や看護師に相談して個々に応じた薬の提供等を行い便秘予防に取り組んでいる。			
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望に応じた支援を行い、希望が無い方等は声掛けを行い工夫して支援を行っている。	一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて週2～3回を目安に入浴支援をしている。また、入浴拒否の強い利用者にも柔軟な支援をしている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣の状況把握を行い、1人ひとりに合った安眠、休息の支援を行っている。			
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を確認し薬の用法、副作用の把握をしている。服薬管理とチェック表を用いて服薬の間違いがないように努め、症状の変化の確認に努めている。			
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の生活歴、ホームでの生活を把握し本人にあった役割を持ってもらえるよう支援している。季節感のある行事への参加や外出支援なども行っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	行事係りを中心に行事等で出来る限り全員参加できるよう支援している。また本人の希望により家族と外出、外泊できるように支援している。	一人ひとりのその日の希望にそって、散歩や買い物等を行っている。また、春には函館公園での花見、秋には四季の杜公園での紅葉散策、函館牛乳や立待岬への気分転換のドライブなど戸外に出かけられるよう支援している。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している方がおり、トラブルを防止する為にも事前に家族、本人と相談し個々の管理能力に応じた支援をしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話や携帯電話を使用する方がおり、電話する時や手紙を書く時には必要に応じて間に入ったりして支援をしている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホールに植物を置き環境を和らげるように努めている。季節に応じた飾り付けを行い居心地のいい空間作りの工夫をしている。	利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。また、生活感や季節感を採り入れた飾り付けや観葉植物の配置、壁には日常や行事の写真が掲示され家庭的な雰囲気になっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファやマッサージチェア等を配置しており個々に暮らしたり気の合う者同士で暮らしたりと居場所作りの工夫をしている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人の使い慣れた物を持参して頂き、家族と本人と相談を行いながら、心地よく過ごせるように工夫している。	居室には、本人や家族と相談しながら、使い慣れた家具や寝具等が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや段差を配慮したバリアフリー構造になっている。又、環境の変化に対応出来る様に掲示物を貼り、不安なく安全に暮らしていけるように工夫している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171401797		
法人名	医療法人社団向仁会		
事業所名	医療法人社団向仁会グループホームよろこびの家住慶 2階		
所在地	函館市谷地頭町31-8		
自己評価作成日	平成24年12月18日	評価結果市町村受理日	平成25年3月7日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0171401797-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成25年2月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりの意思を尊重し、「その人らしさ」を最後まで失わないよう、適切なサービスの提供を心掛けます。
入居者様が地域社会の一員として生活出来るように支え、医療・介護の提供・尊厳やプライバシーへの配慮を重視した総合的な生活支援を目指します。
24時間365日職員が常駐して、提携の医療機関と連携を図り、入居者様の日々の健康管理や緊急時のサポートを行います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全体で理念を作り上げ、スタッフルームへ掲示し、理念に沿った介護サービスの提供を行うようにしている。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	行事等で地域住民との交流や事業所の広報誌や運営推進会議等に参加して頂き交流をしている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌にて認知症についての情報を記載したり、運営推進会議等にて事業所より地域貢献に活かせるように情報を発信している。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回会議を実施し、事業所より情報の提供を行い、サービスの向上に活かしている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所や地域包括支援センターとの連絡を行い、積極的にケアサービスの提供に取り組んでいる。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設けており、会議にて勉強会や情報共有をし、各事業所にて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての情報を職員へ提供し、職員各自が虐待について考え、事業所全体での防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内・施設外研修を通じて、権利擁護に関する制度について学び、その研修内容を活用できるように支援を行う。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居担当者が事前に十分な説明と疑問や不安について十分協議し、契約に関しての理解・納得を図っている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に職員へ意見を言える環境を整え、また言いにくい意見については意見箱を設け、意見等に対して対応している。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議や職員面談を行い、運営に関する意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員昇級試験や契約更新時に人事考課にて評価と管理者との面談を行い、各自が向上心を持って働けるように努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	契約更新時に職員の情報を把握し、勤務表を調整するにあたり、職員の希望に合わせ内部・外部の研修へ参加するように進めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の研修への参加や、外部の研修への参加を進め、事業所のサービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居担当者が事前に本人の不安・要望に耳を傾けながら、十分協議し関係づくりに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居担当者が事前に家族の不安・要望に耳を傾けながら、十分協議し関係づくりに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居担当者の情報を基に、計画作成担当者が現在の本人と家族が必要としているものを見極め、必要な対応に努めている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する者、される者という考えをなくし、グループホームにて共に生活をする者としての関係を築いている。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の本人との関係を改善・向上していきながら、共に本人を支えていく関係づくりに努めている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や親戚等が面会に来られるように、支援に努めている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有スペースにて一緒に食事や交流の機会を持ち、互いに支え合えるように支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要に応じて、本人・家族様との相談や支援に努めている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それぞれ思いや希望、意向の把握に努め、介護計画を作成し、検討している。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や馴染みの暮らし方を把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の詳細な様子を介護記録に記入し、様々な現状の把握に努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスやサービス担当者会議を実施し、関係者での意見交換を行い、現状に即した介護計画の作成をしている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子が介護サービスの提供を実施し、職員間共有パソコンシステムのMywebを使用して介護計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他の業種、他の事業所、役所、包括支援センターとの連携を行い、柔軟な支援を行えるように取り組んでいる。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町会や民生委員との連携を行い、安全な暮らしを楽しむように支援している。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望やお世話になっている主治医との関係を大切に、適切な医療を受けられるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携看護師による週1回の健康管理と24時間オンコールにて医療に関する指示や助言を頂ける様にし、適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には介護添書を提出し、情報交換や入院中、退院後の対応についても連携を行っている。また、緊急時の対応に備えて日頃より医療機関との関係づくりを行っている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りに関する説明を行い、実際に看取りのサービス提供を行う際には十分に関係者全員にて支援に取り組んでいる。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成し、緊急時の手当てや対応について訓練を行い、備えている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防立会いの基、総合防災訓練を実施し、昼夜を問わず利用者が避難できる訓練を行い、必要時には地域の協力を受けられるように体制を築いている。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の個人としての人格を尊重し、プライバシーや気持ちを考慮し対応している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人が様々な物事に対して、自己決定できるように働きかけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけその方の生活のペースを大切に、希望に副える支援をしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員がお手伝いを行い、本人が希望する身だしなみやおしゃれができる様に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになる様に、個々の嗜好に合わせた献立の作成、職員と入居者様と一緒に調理を行う。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事の状態に合わせて、お粥・刻み・減塩等の食事方法の提供を行い、支援している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に応じて口腔状態の確認や口腔ケアをしている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを知ることで、失敗やおむつの使用を減らし、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	消化の良い物や腹部マッサージ、お腹の運動を改善される食品を摂取するようにし、便秘の予防や改善に取り組んでいる。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員配置によっては厳しい時もあるが、出来るだけ本人の希望にそった支援をしている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	共有スペースでの仮眠や、居室での休息等、その時々状況に応じて個々が安心して休めるように支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の確認、管理を実施し、服薬の際はチェックシートや在庫管理表にて支援している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に役割を持ってもらい、日々を楽しく過ごしていただけるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の際には本人の希望に副えるように支援を行い、必要時にはご家族様や地域とも協力しながら出掛けられるように支援している。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理していただける方には、小額ではあるが管理していただけるように支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話や個人の携帯電話を所持して連絡を取れるように支援している。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースの環境整理を行い、入居者が居心地良く過ごせるように工夫している。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者が共有スペースの中で自分の場所を作り、独りで過ごしたり、他者と過ごしたりと思いに過ごせるように工夫している。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は個々の馴染みの物を自宅より持参され、居心地良く過ごせるような工夫をしている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーの構造になっており、必要な場所には名前を掲示し安全で自立できるような環境づくりに工夫している。		

目標達成計画

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	40	食べ物に対しての好き嫌いがある入居者様 に対する対応。	入居者様個々の嗜好の把握を行う。	代替メニューの作成、その場でのメニューの 変更。	1年
2	48	入居者様個々に合った役割や生きがいを作 る対応。	一人ひとりに合った役割をご用意する。	入居者様に色々な機会を与えるように努め る。	1年
3	49	介護度の上昇に合わせて外出の頻度が下 がってきている。	行事ではなく、個々に合わせた外出の支 援を行う。	行事係りを中心に外出の機会を作る。	1年
4	14	協議会に加入はしているが、なかなか交流の 機会が持てない状況である。	外部の研修に参加し、他との交流を持 つ。	研修係りを中心に限られた職員ではなく、住 慶全員で取り組む。	1年
5	13	資格取得者が少ない為、資格取得できる様 にしたい。	職員の資格取得を目指す。	管理者を中心に様々な研修や勉強会に参加 したり、施設内の研修を行いたい。	1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。